

神奈川健生・社会貢献活動

「健街道」浦賀道(うらがみち) 第1回 東浦賀道 ご案内 金沢八景駅～逸見駅
歩行距離 約12Km

(実施年月日) 2021年 4月24日(土曜日)	(参加人員予定数) 参加人員 30名 スタッフ 5名	(参加費) 1名 / 1,000円 資料代・保険代・他	(運営スタッフ) 富岡秀二・目島公男・岩永正雄 小杉正雄・小杉真希子
--------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	--

集合場所 京急・金沢八景駅橋上駅舎改札口にお越しください。

スタート時間 AM9時30分 (受付は9時00分)

(行程内容)

9:00~ 9:30	金沢八景改札口を出たところで受付開始	
9:40~10:00	駅前でもりエンターション	トイレ
10:15~10:30	上行寺	
10:55~11:10	六浦地区を経由傍示堂石塔群経由京急ストア追浜店	トイレ
11:20~11:30	良心寺	
11:40~12:30	首切観音・浦郷トンネルを抜け池の谷戸公園で昼食	トイレ
13:15~14:15	盛福寺山門・田浦稲荷・長善寺経由浦賀道標柱	
14:20~15:00	十三峠を抜けて按針塚(塚山公園)	トイレ
15:20~15:40	西逸見公園でクールダウン	
16:00	逸見駅まで案内し解散	トイレ

浦賀道(うらがみち)

江戸湾に入る船舶の監視や海難救助を行っていた下田奉行所が享保五年(1720)に浦賀に移転した。

江戸～浦賀間の交通が頻繁になった事から、東海道から分かれる道が整備された。これが東と西の浦賀道である。

東浦賀道は保土ヶ谷宿から分かれ、上大岡、能見台、金沢八景までの金沢道を通り、船越、十三峠を越え、逸見、大津を経て浦賀に入っていく。幕末になると外国船の来航が多くなり江戸と浦賀の間を早馬が行きかかったという。

西浦賀道は戸塚宿から分かれ、笠間で鎌倉街道中道に合流し鎌倉に入る。その先は名越の切通しを通過して逗子葉山に入り、三浦半島を横断し、大津陣屋の先で東浦賀道に合流して浦賀奉行所に向かった。

【見どころ・聞きどころ】

上行寺：元は真言宗の寺であったが建長六年(1254)に日蓮上人が六浦の浜に到着した縁から日蓮宗に改宗した。船が到着したと伝わる「船繋ぎの松跡」や日荷上人が身延山より持ち帰って植えたといわれる「樹齢700年の榎(かや)の木」の下には日荷上人の墓がある。

傍示堂：昔この辺りは天神山脈が東西に連なって、険しい山道でした。この場所は浦郷村(追浜)と六浦荘村の村境で隣村から悪人や病気が入らぬことや村人の長寿を祈ったのが石塔の始まりです。舟形の石の中に郎地蔵様が彫られている。

盛福寺山門：支柱に四つの脚が付く四脚門で、屋根は切妻造りで葦葺きの屋根であった。寺は江戸時代初期に円覚寺管長の隠居所として建てられた、2度の火災で七堂伽藍は焼失したがこの山門は焼失を免れた。

おったざか(大田坂)：浦賀道の最難所でもある急な坂道です。現在はつづら折りの階段になっているが、途中で何回も休まなければ登れない、当時の人は足場が悪く急なこの坂をよく上ったものだ。

三浦按針夫妻の墓(安針塚)：本名はウィリアム・アダムス オランダ東印度会社の水先案内人で太平洋を航行中に大風にあたり、九州に流れ着いた。後に徳川家康の信任を得て外交顧問となった。この墓は按針と妻を弔うもので、遺言によりこの地に建てられたと伝わる。

(中止の場合)

前日の夕刻に参加者に電話連絡する

中止の振替日は5月22日(土)です

(服装・履物・持参品)

ハイキングの服装(雨天時の傘・レインコート)・歩きやすい靴

健康保険証・名札(緊急連絡先付)・お弁当・飲み物(お茶やコーヒー等のカフェイン含有飲料は避ける事)

(行程上のお願いと注意点)

- ★ 金沢八景駅集合場所で参加費のお支払いをお願い致します。
- ★ 飲料水は多めに持って、のどが渇く前に定期的にとって下さい。
- ★ 道幅が狭い処では、車両の通行で危険です、スタッフの指示に必ず従って下さい。
又特に今回はトイレ箇所が少ないため指定された処で必ずお済ませ下さい。
- ★ 今行程の昼食場所は田浦・港が丘の「池の谷戸公園」でお弁当を食べて頂きます、シート等の敷物をご用意ください。

お問い合わせ連絡先 富岡 秀二

e-mail : hideteru71166@yahoo.co.jp

TEL/FAX : 045-904-0230

携帯 : 090-9300-3562